

※本資料は、今後の当局（IASB・FASB・ASBJ等）の動向、方針、制度に対する弊社の見解を示す資料であり、その内容の正確性または完全性を、（明示的にも暗示的にも）表明あるいは保証するものではありません。

企業会計基準委員会がIFRS9号の日本基準への適用を議論 減損や資本性FVOCIのノンリサイクリング処理が課題に

第33号

Feb-2018

ASBJは2018年2月9日、第378回企業会計基準委員会において「日本基準を国際的に整合性のあるものとする取り組み」の一環として金融商品（IFRS9号）を適用する上での考え方や適用上の課題、今後の検討方針などの議論を行った。

「分類及び測定」「減損」「ヘッジ会計」「認識の中止」という4つの分野で検討を行っており、「減損」については「特に重要な分野である」とし、適用上の課題として以下の項目を挙げた。

- ・ 相対的アプローチに関連する課題
 - ① 債権単位での信用リスクの管理の必要性（日本基準では債務者単位）
 - ② 信用リスクの著しい増大の判定基準
- ・ 将来予測的な情報の減損見積りへの反映（企業間のモデル相違など） 等

また、「分類及び測定」の中では資本性FVOCIのノンリサイクリング処理の扱いについて検討が必要と議論されている。

詳細はASBJのホームページ等を参照。